

中央区文化・国際交流振興協会だより



「八丁堀 友醸社」(1988年) 小川幸治 中央区立郷土天文館所蔵

● 特集 ●

「舞台裏から学ぶ歌舞伎」

歌舞伎の醍醐味・附け打ちに挑戦！

(株)パシフィックアートセンター 附け打ちグループ 附け打ち専門職 山崎 徹

■ 令和元年度の事業計画と予算

■ 中央区 ひと 粋・活き のれん・提灯・^{ちょうちん}下絵^{したえ}の展示館 有限会社 津多屋商店



「舞台裏から学ぶ歌舞伎」

歌舞伎の醍醐味・ 付け打ちに挑戦！

(株) パシフィックアートセンター
付け打ちグループ 付け打ち専門職

山崎 徹



日本橋公会堂での講演

伝統芸能の舞台を支える裏方の知られざる役割や伝承される技の数々について実際に見て触れて、舞台裏から歌舞伎の魅力を発見していただく体験型の連続講座「舞台裏から学ぶ歌舞伎」を平成30年9月に開催いたしました。その3回目に付け打ち専門職として幅広くご活躍されている山崎 徹氏をお招きし、「歌舞伎の醍醐味・付け打ちに挑戦！」と題してご講演いただきましたところ、大変好評でしたので、このたび講演に関連した内容について寄稿していただきました。

山崎 徹（やまさき とおる）



(株) パシフィックアートセンター
＜PAC＞ 付け打ちグループ 付け打ち専門職
19歳の時、(有)ライフ美術社＜現(株)ライフ総合舞台＞(香川県高松市)入社。

平成元年秋に上京後、フリーランスを経て平成4年10月(株)PAC入社。新橋演舞場に配属され、本格的に付け打ちを目指す。

初めての舞台は、平成4年1月新春浅草歌舞伎「雨の五郎」(曾我五郎：中村橋之助＝現・中村芝翫)。以来、国内・海外での大歌舞伎公演を中心に従事。多くの公演で付け打ち指導・録音での参加をしている。古典・新作の歌舞伎に携わりながら、その経験を活かし多彩な分野でチャレンジを続けている。2002年から「付け打ち委員会」を社内に立上げ、後進の育成にあたる。

また、付け打ちから見た平成のいまの歌舞伎の楽しさを伝えるため「付けの會」を主宰し、全国各地でレクチャー・ワークショップを開催している。

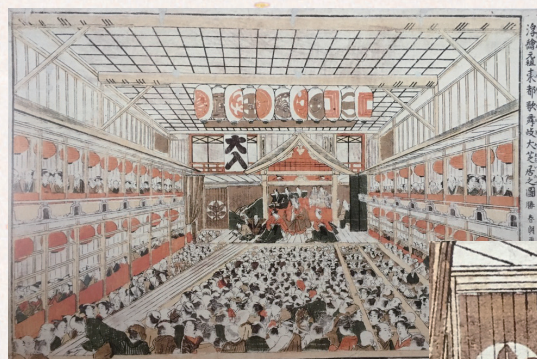
初めまして！歌舞伎の付け打ちをしております山崎徹と申します。中央区在住・在勤の皆様へ、日本の伝統工芸・伝統芸能に触れて広く知っていただくための文化講座。何を隠そう、私も十数年来の中央区民でございます。中央区にはたくさんの劇場があります。受講の方々は普段から伝統芸能を身近に親しんでいるゆえに「もっと深く知りたい」という関心が高く、今回はまずは歌舞伎における付けの発展からスタートしました。

付けとは

付けは、一言で申しますと「役の演技を強調する」役割です。登場人物の動きや仕草に音しぐさを付けることで、観客に印象付けさせるために使われます。物語の大事な場面や、大道具の転換や小道具の仕掛けの強調にも使われます。「芝居に音を付ける」ことから「付け」と言われ、その付けを担当するものを「付け打ち」と呼びます。

付けの始まり

付けの原点は、もともと民俗芸能の中で、鬼や龍などの超人的な荒神が登場する時に壁や床を大きな拍子木たたで叩いて音を出して、見物人を驚かせるような効果をつけたのが始まりだと言われています。民衆文化が栄えた江戸時代。当時大坂で流行していた人形浄瑠璃(当時は操り浄瑠璃と呼ばれていた)の中で、人形の演技を引き立てるための効果音が入り入れられます。「付け」の役割は、ここから始まったのです。この大人気の人形浄瑠璃に影響を受けた当時の上方の歌舞伎役者が、付けを取り入れるようになりました。その後、江戸での芝居興行の際に、江戸の歌舞伎役者たちに教えたと言われています。その付けの原点を意味し、現存する形しぐさで残っているのが、御存じの「極付幡随長兵衛」に登場する金平浄瑠璃きんぺいじょうるりです。この金平浄瑠璃の中で江戸時代は、役者が荒ぶる演技の中で人形を打ち割るという史実が残っています。この効果を付けに変えたものだとも言われています。



江戸の芝居小屋の様子「浮絵元祖東都歌舞伎大芝居之図」(東京・太田記念美術館)



江戸歌舞伎（荒事）の誕生

当時の江戸でも人形浄瑠璃が盛んで、特に江戸っ子の気質に合った「時代物」と呼ばれる演出が大変好まれていました。江戸の役者たちは修業を重ね、独自に「見得」や「睨み」などを考案し、のちに時代物から「荒事」というジャンルを確立したのです。この「見得」をより誇張して見せるために「付け」を入れることで、その効果がより一層引き立つようになり



役者絵に残る江戸の付け打ちの姿
「一陽斎豊国作」

ました。初代市川團十郎が世に出たのもその頃だと言わ

れています。團十郎の登場は上方に比べ、まだまだ発展途上だった江戸の歌舞伎に、大きな発展をもたらしました。

江戸っ子気質が江戸歌舞伎を育てた

「荒事」の演技が特徴的な江戸では、付けも勢いよくキツパリとした音が好まれ、江戸っ子気質の、役者お抱えの身のまわりの世話をする人たちが付けを担当していました。その人たちは、師事する役者の出番になると楽屋から舞台に来て付けを打ったそうです。やがて名人と呼ばれる付け打ち専門の職人となり、近年（昭和20年以前）でも、六代目菊五郎、初代吉右衛門、十五代目羽左衛門、六代目歌右衛門にはそれぞれ専属の付け打ちが付いていました。各幹部俳優に一人の付け打ちですから、東西歌舞伎役者が勢揃いする師走の南座顔見世公演では、5～6人の付け打ちが入れ替わり担当していました。また、舞台係（大道具方）へ引き継がれる時代が来るのは、その後のことです。そして平成となり、舞台技術も進歩して分業化が進み、大道具から分離して付け打ち専門職として復活いたしました。

今回の講座は、この付けの発展と、舞台における付けの役割をキーワードに、実演を交えてご紹介をしていきました。また、今回は、日本橋公会堂の中の二つ会場を「移動して」体験していただくという、私にとっても初の試みの講座となりました。まずは第一会場での座学の始まりです。

さあ、
お客様を
お迎えする



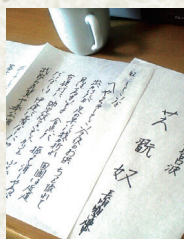
江戸時代の稽古場の様子「三櫓稽古之大會より」

第一部 付け打ち い・ろ・は

付け打ちの仕事

担当公演が決まり、台本を貰ってから稽古場が始まるまで、舞台稽古、初日から千種楽までの仕事は多岐に

渡ります。事前に台本には音楽のこと、舞台進行のこと、付けの入るきっかけを書き込んでいきます。稽古場が始まると稽古に添って決まったことを書き加えていきます。台本は



付けの符号を記入する「付け帳」

本番の舞台へは持ち込めませんので、きっかけの台詞や浄瑠璃や唄を、覚えておかなければいけません。初日が開いてからも立廻りを作る立師さんや俳優さんの要望を聞き対応していきます。

付け打ちの役割

付けの第一の役割である「強調する」は、ドラマが最高潮に達するとき、見得などの様式的な演技をより力強く見せるために使われる表現です。その他にも大切な役目があります。

歌舞伎の道しるべを知る。 みんな付け打ちの手を見ている！

大事な宝物を奪い合ったり、証拠の手紙を落としてしまったりと、物語の分岐点（キーポイント）に音を付けて、「流れ」を導いたり、鍵を握っている役者の登場に「メリハリ」

を出し、物語の道しるべを定めます。立ち廻りでは「躍動感」を出し舞台をよりダイナミックにする相乗効果にも使われます。また、歌舞伎音楽との連携が重要で特にお囃子・竹本（義太夫）とは、関わり合いが深く、付けの音がきっかけで音楽の変わり目となることが多く、進行上においても「知らせる」という重要な役割を担うため、付けを打ち始めるには左手、打ち納めるのは右手と決まっています。この付け打ちの手の動きを見て、見得などの時に、音楽を上げ（止める）たり、音変わりをしったりするきっかけとしています。

道具・衣裳のことから 付けの打ち方まで

付け打ちの衣裳は、黒の半着付に角帯を締め、タツツケ袴・黒足袋と



ホールへ会場を移動して、いざ！附け打ちに挑戦

いう扮装です。裏黒の黒足袋を履くのは裏方さんですよという印です。江戸の芝居小屋に存在した舞台番の名残りだと言われています。道具は、「附け板」に「附け木」、そして板の下に敷く「敷き布」という三つ。道具の買い付けから加工・寝かせ～保管方法まで、舞台上で打てるようになるまでに実に2年～3年と年月がかかるものです。実際に、仕上がった道具を触ってもらいその重さやお値段に皆さん意外な反応をされていました。ここまでの座学で、参加者の皆さん、もう打ちたくて仕方がありません！満を持しての第二会場へ向かいます！～



綿密な道具の管理の様子

第二部 附け打ち体験

第二部は打ち方体験からスタートです。舞台には実際に使われている附け打ちのセットが並べられています。座学で打ち方をお教えしたので、皆さん、割とス

ムースに音が出せます。いい音が出る時は、木と板がピタリと吸い込まれるような感覚になります。つまり芯のある音になります。コツとしてはドラムスティックを持つように軽く握り、手の振りや附け木の重さを利用して打ち込むこと。叩き付けるように、力まかせに打たないことです。

番外編！サプライズ！ 歌舞伎役者の登場！客席との一体感！

やはり附けの効果は役者の動きあってのもの。ここで、歌舞伎座に出演中の歌舞伎俳優・中村橋吾さんに特別にお越しいただきまして、舞台上で実演をしていただきました。役者と附け打ちの実演は、重みのある荒事のセリフや、立役のご注進と呼ばれる戦況報告の一場面、また女形の実演など歌舞伎俳優ならではの女形との役の演じ分けを間近でご覧いただき、その迫力と演技を押し出す附けの効果をよりハッキリと知っていただきました。附けは、「音と間合いの勝負」と言われ、活け殺し（強弱）付け、役者を歯切れのいい音で引っ張り込むように打ち込んでいくこと、これが一番大切で、附け打ちの善し悪しと言われます。講座の最後には、俳優さんによる歌舞伎の所作（構えや動き）のレクチャーの後、参加者の皆さんが役者になっていた、歌舞伎の代表的な演出法である「だんまり」をお客様全員で行いました。だんまりとは、真っ暗の間の中を物語の主人公たちが勢揃いを

するという趣向で、次の場面への仕掛けも含まれ中盤の山場という時に使われるものです。参加者の皆さん、それぞれの演技をしながら、一堂に会しての見得で見事に決まりました。

講座を終えて。 中央区に期待！

講座終了後に、多くにご質問を頂戴しました。

苦労や身体のケアについてのご心配の声、やりがいはい？

好きな芝居は何ですか？

どうやったら附け打ちになれるのでしょうか？

興味を持ってくださり、有り難いことです。特に一番嬉しかったのは「この附けの音が大好きなんです」とおっしゃっていただいたこと。

附け打ちとは、舞台と客席に間の「夢と現実の世界の間」に座って、音を附けることで、芝居を押し出したりお客様を引き込んだり、2.5次元の世界のように、空間を動かして、“観客と舞台を繋ぐ”役割があるのです。

今回は参加者の皆さん自らこの夢の世界へ飛び込んできてくださいました！私たちのような伝統芸能を支える仕事を知っていただく機会を設けていただき感謝申し上げます。

今後の技術の継承という意味でも大変に有意義な講座でした。このような講座が継続されることを切に願います。ありがとうございました。

令和元年度の事業計画と予算の概要をお知らせします。
事業内容の詳細が決定していない事業については、決まり次第協会のホームページや区のおしらせに掲載いたします。なお、写真は全て前年度のものです。

令和元年度事業計画

文化振興事業

1 機関誌発行・ホームページの管理運営

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行するとともに、スマートフォンにも対応できるように平成30年3月にリニューアルした協会ホームページを適宜更新し、協会の事業紹介や最新のイベント情報をお知らせいたします。

情報誌

部 数：5,500部 A4判

発行回数：年2回発行（7月－71号 12月－72号）

ホームページ

URL：https://www.chuo-ci.jp/

2 芸術・文化の普及

(1) コンサート

区民等に親しみやすい音楽鑑賞の機会を提供し、地域の文化活動の推進を図ります。

開催予定：令和元年9月6日（金）午後6時45分開演

会 場：日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

内 容：上妻 宏光 コンサート2019

出演者：上妻 宏光（三味線）、野崎洋一（ピアノ）

参加費：2,000円

定 員：424名



平成30年度コンサート

(2) 文化講座

中央区に關係の深い各種文化や芸術、歴史等について、専門家の講話等によりその理解を深めるとともに、区民の文化意識の向上を図ります。

開催予定：

第1回：令和元年 9月 5日（木）

第2回： 〃 9月19日（木）

各回とも午後6時45分～8時15分



平成30年度文化講座

内 容：「世界に誇る日本の漆文化を学ぶ」

講 師：公益社団法人日展 理事
東京藝術大学 参与・名誉教授 三田村有純
株式会社佐藤喜代松商店 代表 佐藤 貴彦
会 場：日本橋公会堂集会室
定 員：各回100名
参加費：無 料
協 力：一般社団法人日本漆工協会

(3) 特別文化講演会

展覧会に関連した講演会を、NHKとの共催により年4回程度開催し、区民の文化意識の向上を図ります。

なお、参加者には展覧会の入場券（一人1枚）を差し上げます。

①特別展「国宝 東寺一空海と仏像曼荼羅」関連文化講演会

開催日時：平成31年4月10日（水）午後6時50分開演

会 場：日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

講 師：東京国立博物館 列品管理課貸与特別観覧室
研究員 西木 政統

定 員：424名

参加費：無 料

②国立西洋美術館開館60周年記念「松方コレクション展」関連文化講演会

開催日時：令和元年7月30日（火）午後6時50分開演

会 場：日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

講 師：国立西洋美術館 主任研究員 陳岡 めぐみ

定 員：424名

参加費：無 料

(4) 古典芸能鑑賞会

中央区に深い関わりをもつ古典芸能を鑑賞する機会を提供し、伝統文化に対する愛着心を育むとともに、その継承・普及を図ります。企画・制作は、中央区を中心に活動する古典芸能実演家で構成する「中央区古典芸能の会」に委託します。

開催日時：令和元年年6月22日（土）午後5時開演

会 場：日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

内 容：講話・舞踊常磐津「菖蒲売り」、演奏長唄「勧進帳」、講談「瓢箪屋裁き」舞踊長唄「操り三番叟」

参加費：2,000円（中学生以下は1,000円）

定 員：424名



平成30年度古典芸能鑑賞会

(5) 文化推進事業助成

区内における文化活動をさらに促進し、中央区の文化振興をより一層推進していくため、文化事業等に対して後援するとともに、その事業の実施等に要する経費の一部を助成します。

①文化創造・発信事業助成

助成金額：当該事業の対象経費の9/10の範囲内
（上限200万円）

②文化団体活動助成

助成金額：当該団体活動の対象経費の1/2の範囲内
（上限40万円）

③文化推進事業助成

助成金額：当該事業の対象経費の1/2の範囲内
(上限10万円)

(6) 中央区まるごとミュージアム

中央区と共催で、区民や区外からの参加者の方々が無料のバスや船で区内を回遊しながら、民間の文化事業をはじめさまざまな文化的な魅力に触れられる文化イベントを開催します。(12回目)

開催予定：令和元年11月4日(月・休)

会場：中央区全域

(7) 文化振興プロデュースチーム

「中央区文化振興プラン」の提言(平成20年3月)に基づき、区民(企業、NPO等を含む)の自主的な文化活動の推進・拡大を図るため、中央区と協会が協力して平成20年度に文化の専門家等からなるプロデュースチームを設置しました。今後も、区内の文化事業のさらなる充実・発展に資するため、必要な助言を行っていきます。

構成員：6名(検討項目によって委員を追加します)

国際交流振興事業

(1) 国際交流のつどい

外国人と日本人との交流を推進するため、日本の伝統文化等を紹介するとともに、外国文化にも触れられる交流イベントを開催します。

開催予定：令和元年11月16日(土) 正午～午後4時

会場：築地社会教育会館

内容：伝統文化体験コーナー、懇談コーナー、国際交流サロン、防災コーナー等

(1) INTERNATIONAL EXCHANGE PARTY

This event is to be held once a year to promote cultural exchange as well as deepen mutual understanding between Japanese and foreign residents. Please come and experience Japanese traditional culture such as Tea Ceremony and Flower Arrangement, foods and dances of various countries!

Date & Time: Sat, November 16, 2019 12:00 – 16:00

Place: Tsukiji Social Education Center

Fee: Free



平成30年度国際交流のつどい

(2) 国際交流サロン

区内在住・在勤の外国人と日本人が、日本の文化等を体験できるイベントを通じて交流を楽しめる場を提供します。

開催予定：毎月1回(11月を除く年11回)原則として土曜日の午後

会場：協会講習室ほか

内容：こんなときどうする?、和菓子づくり、ボッチャ体験、ヨーグルトのひみつ等

(2) INTERNATIONAL EXCHANGE SALON

Chuo Cultural and International Exchange Association (CCIEA) holds various events on cultural experiences where both Japanese and non-Japanese residents can enjoy free and

open communication.

Time Schedule: Once a month (11 times a year), basically on Saturday afternoon.

Events: Let's start preparing for disaster today, Wagashi Making, Let's play BOCCIA, The secret of Yogurt, etc.



平成30年度国際交流サロン

(3) 日本語教室

日本語でのコミュニケーションが困難な区内在住・在勤の外国人を対象に日本語を教えるとともに、受講する外国人と日本語ボランティアが交流できる日本語教室を開催します。

また、教室参加希望者の増加や多様化に対応するため、ボランティアが主催する教室への支援も行っています。

[協会主催の日本語教室]

教室	水曜日教室	木曜日教室	土曜日教室
開催予定	第1・2・3水曜日 (8月を除く) 午後6時30分～8時	第1・2・3木曜日 (8月を除く) 午前10時～11時45分	第2・3・4土曜日 (8月は第2・3土曜日を 除く) 午前10時～12時
会場	女性センター「ブーケ21」	協会講習室	協会講習室



平成30年度日本語教室

[協会が支援する日本語教室]

教室	ワールドフレンズ 日曜にほんごクラブ	日本語おたすけたい	月島日本語倶楽部
開催予定	毎週日曜日 午前10時～11時30分	月曜日(月3回) 午後7時～8時30分	毎週火曜日 午前10時～12時
会場	日本橋社会教育会館	日本橋社会教育会館	月島社会教育会館
教室	日本語コミュニケーション・ パートナー	銀座日本語教室	にこにこ日本語
開催予定	第1・2・3火曜日 午後7時～8時30分	第1・2・3水曜日 午前10時～11時30分	木曜日(月3回) 午後7時～8時30分
会場	新富区民館	築地社会教育会館	佃区民館
教室	にほんご生活		
開催予定	毎週土曜日 午後2時～3時45分		
会場	築地教会 別棟		

(3) JAPANESE LANGUAGE CLASSES

We offer Japanese Language classes by volunteer teachers. Besides, we sponsor the classes which are hosted by volunteers in order to meet various demands of increasing students.

I Japanese Classes that we host:

Class	Wednesday Class	Thursday Class	Saturday Class
Schedule	The 1st, 2nd & 3rd Wednesdays (Except August)	The 1st, 2nd & 3rd Thursdays (Except August)	The 2nd, 3rd & 4th Saturdays (Except the 2nd & 3rd Saturdays in August)
Time	18:30~20:00	10:00~11:45	10:00~12:00
Place	Chuo-ku Women's Center "Bouquet 21",	CCIEA Office Lecture Room	CCIEA Office Lecture Room
Fee	Fee About ¥2,500(no fee for the lesson, only for the textbook)		

II Other Japanese Classes that we sponsor:

Class	World Friends Sunday Japanese Club	Nihongo Otasuketai	Tsukishima Nihongo Club
Schedule	Every Sunday	Monday (3 times per month)	Every Tuesday
Time	10:00~11:30	19:00~20:30	10:00~12:00
Place	Nihonbashi Social Education Center	Nihonbashi Social Education Center	Tsukishima Social Education Center
Class	Partners of NIHONGO Communication	Ginza Japanese Language Class	NIKO NIKO NIHONGO
Schedule	The 1st, 2nd & 3rd Tuesdays	The 1st, 2nd & 3rd Wednesdays	Thursday (3 times per month)
Time	19:00~20:30	10:00~11:30	19:00~20:30
Place	Shintomi Community Hall	Tsukiji Social Education Center	Tsukuda Community Hall
Class	Nihongo Seikatsu		
Schedule	Every Saturday		
Time	14:00~15:45		
Place	Tsukiji Church Annex		
Fee	Fees differ depending on the class.		

(4) 日本語指導者養成講座

日本語教室で、区内在住・在勤の外国人に日本語を指導するボランティアを養成するため開催します。

開催予定：令和元年6月～9月、全44時間

会場：協会講習室及び新富区民館

講師：明海大学外国語学部 准教授 西川 寛之

定員：25名程度

(5) 日本語ステップアップ講座

日本語ボランティアを対象にステップアップ講座を開催し、指導者のレベルアップを図ります。

開催予定：年7回（14時間）

(6) ボランティア活動支援

協会登録ボランティアの活動を強化・支援するため、講習会などを開催します。また、中央区等から依頼があったとき、協会登録のボランティアを区の事業実施等に派遣します。

さらに、東京都と共催で「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座について、区内在住在勤・在学の15歳以上の者（中学生を除く）を対象に開催します。

ボランティアの種類及び登録者数（平成31年3月末日現在）

登録者数：409名（実人員）

①通訳・翻訳ボランティア：111名

②イベントスタッフボランティア：230名

③日本語ボランティア：248名

④国際交流サロンボランティア：10名

⑤ホームステイ・ホームビジットボランティア：16名

⑥防災語学ボランティア：66名

協会ボランティアに関する登録区分、要件等を見直し

す。（令和元年度施行）

ア ボランティア講習会

開催予定：年間 2回

イ 「外国人おもてなし語学ボランティア」 育成講座

（ア）セットコース（おもてなし講座＋語学（英語）講座）

開催予定：令和2年3月（11時間30分）

対象：入門～初級の語学力（英語）を有する者

定員：36名

会場：新富区民館

（イ）おもてなしコース（おもてなし講座）

開催予定：令和2年3月（3時間30分）

対象：英語による簡単な日常会話ができる者

定員：60名

会場：日本橋公会堂集会室

(7) 姉妹都市親善写真展

中央区と姉妹都市であるオーストラリア・サザランド市との親善を深めるため、生活やまちの風景、行事等を紹介する写真を相互に交換し、親善写真展を開催します。

開催予定：令和2年2月

会場：3箇所で開催（区役所、日本橋区民センター、月島区民センター 各1階）

(8) 外国客船の歓迎式

東京港晴海埠頭に着岸する外国客船の入港時の歓迎行事に参加し、記念品を贈呈します。

主催：東京都港湾局、一般社団法人東京都港湾振興協会

(9) 国際交流推進事業助成

協会の目的とする事業を推進するため、区民が主体となつて行う国際交流事業に対して後援するとともに、その事業の実施に要する経費の一部を助成します。

助成金額：当該事業の対象経費の1/2の範囲内

（上限10万円）

令和元年度予算

<収入>

科目	予算額（円）	説明
事業収入	1,455,000	コンサート、古典芸能鑑賞会参加費等
区補助金	104,861,000	区からの補助金
寄付金	1,000	
雑入	1,000	預金利子
収入合計	106,318,000	

<支出>

科目	予算額（円）	説明
事業費	67,688,000	
文化振興費	61,831,000	文化振興事業に要する経費
国際交流振興費	5,857,000	国際交流振興事業に要する経費
管理費	38,130,000	
人件費	34,219,000	職員の給与に関する経費
管理運営費	3,911,000	理事会、事務費等
予備費	500,000	
支出合計	106,318,000	

のれん・提灯・下絵の展示館 有限会社 津多屋商店

1931年、築地市場の開場と同時期に開店
粋な「江戸文字」で魚河岸を
盛り上げ続けています。



かとう だいすけ
加藤 大介さん

●プロフィール

築地 6 丁目で魚河岸開場とともに店を構えて
90 年余り。「津多屋商店」の三代目当主。
築地生まれ、築地育ち。江戸文字や書き文字
を得意とし、のれんや千社額のほか手ぬぐいや
半纏のデザインも手がける。

●のれん・提灯・下絵の展示館

東京都中央区築地 6-5-5
☎ 03-3541-3741
<http://www.noren-tsutaya.com/>
月～土曜日（祝日・年末年始・市場休業日等を除く）
7:30～17:30
日比谷線築地駅 1 番出口徒歩 5 分、
大江戸線築地市場駅 A1 番出口徒歩 10 分

●中央区まちかど展示館 ウェブサイト
<http://www.chuoku-machikadotenjikan.jp/>

およそ 90 年にわたり江戸文字を書き、
粋なのれん、提灯、千社額（せんしゃがく）
などを作ってきた「津多屋商店」。誰も
がどこかで知らず知らずにこの人の書
いた「文字」をきつと目にしているはず。
そんな 3 代目の加藤木大介さんにお話
を伺いました。

「江戸文字」とはどんなものですか？

私が書いているのは、筆で書いたように
見せる袋文字と呼ばれるデザイン文字
の一種です。江戸中期に生まれた文字が、
現在では使われ方によってそれぞれ特
徴をもち、歌舞伎の勘亭流、相撲文字、
寄席文字などと呼ばれています。共通す
るのは、千客万来で空気がないようにと、
縁起を担いで隙間をあけず太く勢いよく
描くこと。

私たちは、築地の魚河岸の傍らで江戸文
字を書き始めたので、親父からは「旨そ
うな文字を書け」と言われました。魚
河岸で使われる江戸文字は、やっぱり
活きがよくて、格好良くて、旨そうじゃ
なくちゃいけません。

場外市場には「千社額棟」と呼ばれる建物がありますが、千社額とは？

お寿司屋さんの壁にかかっているのを見
たことはありませんか？ 千社額とは、
もともと奉納額と呼ばれ、寺社への大き
な奉納品を納めた団体の個人々人を表す
木札を並べたものでした。やがて、第二
次大戦後開店祝いに河岸の仲卸さんた
ちが名前を連ねて贈るものへと広がり
ました。築地場外市場の総合案内所「ぶ
らっと築地」の建物にもずらりと私手が
けた 180 枚の千社額が並んでいます。

時代を超えて書き継がれる江戸文字。令和の時代の抱負をお聞かせください。

昔は、のれんや提灯、お正月の初荷の旗、
大漁旗など、魚河岸をとりまく商いでは



たくさんの用途に合わせた文字が必要
とされました。

また、築地の連中は商売繁盛のためのお
参りが好きで、神社や寺、お祭りに築地
の魚河岸としてさまざまな奉納品を数
多く寄進していました。奉納物は一度掲
げたら減多なことで下げるものではな
いため、今も浅草寺や成田山などに寄進
物があります。それらと一緒に私たちの
書いた江戸文字が残っていくのは嬉し
いです。以前、秩父にある神社に、祖父
が手がけた奉納額があるというので、見
せてもらったことがあります。そこには、
昭和 35 年のじいさんの仕事がありまし
た。時代を超えて残っていく仕事である
ことを、ありがたく感じます。

これから築地がどう変わっていくか、私に
もわかりません。江戸文字を書くことも大
切ですが、築地の魚河岸を取り巻いてき
た文化を後世に残す仕事も必要だと感じ
ています。数年前には「絵びら」と呼ば
れる貴重な昔の宣伝ポスターを集めて、
本にまとめました。婆さん子だった私は、
年齢のわりには昔のこの町の伝統を経験
してきています。これから少しずつ語り継
いでいきたいと思っています。

役員名簿（令和元年 7 月 12 日理事会 一部改選）

理事長	三田 芳裕	中央区観光協会副会長
副理事長	齊藤 進	中央区副区長
理事	遠藤 彬	東京商工会議所中央支部副会長
〃	柴川 賢	中央区商店街連合会会長
〃	森山 照明	中央区工業団体連合会会長
〃	山本 康一	東京日本橋東ロータリークラブ会長
〃	五味 達夫	東京銀座ライオンズクラブ元会長
〃	大長 清高	京橋地域町会連合会会長
〃	中野 耕佑	日本橋地域町会連合会会長
〃	宮森 孝一	月島地域町会連合会会長
〃	石本 正幸	中央区文化連盟連絡協議会会長
〃	木本 慎一	中央区体育協理理事長
〃	坂間 政利	中央区 P T A 連合会会長
〃	三上 瑛康	東京青年会議所中央区委員会委員長
〃	遠藤 龍雄	中央区区民部長
〃	長嶋 育夫	中央区教育委員会事務局次長
監事	神谷 聖子	中央区女性海外研修者の会元会長
〃	坂田 直昭	中央区会計管理者

表紙 八丁堀 友醸社 小川 幸治

「八丁堀の旦那」と呼ばれた与力同心の組屋敷があっ
た。江戸の治安に活躍した与力同心たちの中に生活費を得る
ために、町民に土地を貸すものも出てきて、やがて町の形が
できた。現在も鈴らん通りには、神仏師、日本刺繍、和菓子、
漢方薬、蕎麦、靴職人、文具印刷、酒場などの看板があり、
働く男たちの姿が瞳に映る。

特集は、舞台裏から歌舞伎の魅力を発見していただく体験型の連続講座として平成 30 年 9 月
に開催した「文化講座」の中で、国内外を問わず幅広く活躍されている附け打ち専門職の山
崎 徹氏に「歌舞伎の醍醐味・附け打ちに挑戦！」と題して講演いただきましたところ大変好評
でしたので、このたび講演に関連した内容で寄稿していただきました。

「ひと 粋・活き」では、中央区が誇る文化資源を紹介する「中央区まちかど展示館」の一つで
あり、1931 年に築地 6 丁目でお店を構えて以来、約 90 年にわたり江戸文字を追求し続けてき
た「有限会社 津多屋商店」の 3 代目店主の加藤 大介氏にお話を伺いました。